



PRESS RELEASE

報道関係各位

2023年9月22日

カリフォルニアワイン 2023 収穫見通し

遅めのスタートながらも高品質が約束される年

長く涼しい生育期間と潤沢な降雨を受け、生産者たちは優れたヴィンテージに期待



カリフォルニアワイン協会 (California Wine Institute、略称 CWI) は、2023 年のワイン用ブドウの収穫見通しを、以下のとおり発表しました。

2023 年におけるカリフォルニア産ワイン用ブドウの収穫は、遅めのスタートとなりました。今年の春から夏にかけての気温が低かったため、ブドウの成熟が徐々にゆっくりと進み、収穫時期は例年と比べて 1~2 週間から 1 カ月近く遅れています。まだ収穫時期の序盤ではあるものの、カリフォルニアの生産者たちは、高品質の 2023 年ヴィンテージを期待しています。

例えば、ナパ・ヴァレーのトゥーミー・セラーズは、通常より 1 週間から 10 日遅い 8 月 28 日にソーヴィニヨン・ブランの収穫を開始しました。シルバー・オーク、トゥーミー、OVID ナパ・ヴァレー、タイムレス・ナパ・ヴァレーのワイン醸造チームを統括する、シルバー・オークのマネージング・ディレクターであるネイト・ヴァイスは「収穫量としては、まだバケツに一滴垂らした程度のもですが、それでも始まりは始まりです。私がこの仕事を始めた頃を思い出します。当時は、これぐらいが典型的なスケジュールでした。冬にはナパ、ソノマ両地区に異例な量の雨がもたらされ、それに続く春の冷涼な気候と湿った土壌が、開花を遅く長いものにしました。色づきは 7 月下旬頃から始まり、ゆっくりと進みました」と述べています。赤ワイン品種については「どこでも、ブドウのフェノール成分の成熟が重要になっています。ピノ・ノワールは、色づきを終えるのが非常に遅いようなので、多くの場合、ボルドー系品種のほうが、ピノより先に摘み取りが始まるかもしれません」。収穫開始が遅れると、雨の心配が常につきまといますが、ヴァイスはピノ・ノワールの成熟がゆっくり進むことが有益である可能性を指摘します。「天気が持ち堪える限り、品質面ではとても素晴らしいことかもしれません」。今シーズンは湿度が高く、病害の脅威が強かったが、彼はブドウ畑でベト病をあまり見ておらず「冷涼な夏のおかげで、すべてのブドウが非常によい状態に見えます。この点については楽観視できるでしょう」と、述べています。



ローダイにあるランゲ・ツインズ・ファミリー・ワイナリー・アンド・ヴィンヤーズでは、8月11日にスパークリング・ワイン用のブドウの収穫が始まりました。共同設立者であるランディ・ランゲは、通常7月下旬に始まる収穫が、今年は2~3週間遅れていると見ています。「春のあいだじゅうずっと、とても涼しい天候が続きました」と彼は述べています。生育期間の開始が遅れたことを受け、ランゲ・ツインズの栽培チームは、収穫期終了までに成熟が終わりそうにない晩熟品種の果実を切り落とす対応をしました。

ブドウ栽培担当副社長のアーロン・ランゲによれば、冬の大雨は、何年ものあいだ干ばつに苦しめられたブドウ樹が待ち望んでいた潤いを与えてくれたものの、その降水量はベト病の可能性をも高めたとのこと。「新梢の間引き、除葉、慎重な摘房によって病害を抑え、理想的な成熟環境を作り出すために努力してきました」。カベルネ・ソーヴィニヨンの収穫適期について、一般的な9月下旬ではなく、10月の第1週か第2週頃になると見ており「全体として、2023年はすばらしいヴィンテージになりそうです。ローダイで、過去最高の作柄のひとつを生み出せる状態にあります」と彼は述べています。



パソ・ロブレスでも状況は似ているようです。8月下旬の時点で、この地域の生産者たちはまだ収穫を始めていませんでした。「7月末から8月にかけて暑かったものの、今年はゆっくりと成熟が進む年です。積算温度の数値で、2~3週間遅れています」と、ホープ・ファミリー・ワインズの栽培責任者であるステイシー・シーは述べています。冬の嵐は、この地域に恩恵と挑戦の両方をもたらしたと、彼女は付け加えました。「恩恵のほうは、何年も干ばつが続いたことで蓄積した土壌中の塩分を下方へと押し流したこと、挑戦のほうは、小川や川床近くに位置するブドウ畑で洪水が起きたことです。春の開花期には湿度が高く風も強かったため、いくらか花震いが生じ、ベト病の脅威も高まりましたが、果粒の生育は順調でした。概して言うと、雨の多い冬のおかげでブドウ樹の健康状態が良くなったことで、多くの品種でより一般的な大きさの房が収穫できるようになりました」と、シーは語ります。「遅い摘み取りには用心が必要で神経も使いますが、秋の天候が暖かく安定してくれば、果粒の自然な成熟に何よりも必要なハングタイムを与えられます。このことは確実に赤ワイン用の品種の品質を向上させてくれます」



2023 年のカリフォルニア全州におけるワイン用ブドウの収穫を振り返る収穫期終盤の詳細については、カリフォルニアワイン協会が今後プレスリリースする、包括的な収穫レポートをご覧ください。

[画像をダウンロードする](#)

カリフォルニアワイン協会(本部・カリフォルニア州サンフランシスコ)は、1,000 社を超えるカリフォルニアのワイナリー及びワイン関連企業から構成される非営利団体で、ワインの生産や流通や消費に関する政策的な提言を行っています。輸出プログラムにおいては、世界 18 カ国に事務所を置き、世界 27 カ国でマーケティングとプロモーションを実施しています。ワイン業界関係者・メディア・消費者向け試飲会の実施などをサポートしており、毎年 185 以上のカリフォルニアのワイナリーが当プログラムに参加、142 か国にワインを輸出しています。日本事務所は、カリフォルニアワインの普及促進、日本市場における関税、非関税障壁の監視などを目的に 1985 年に設立されました。 www.calwines.jp

以上

この件に関する読者からのお問合せ先 カリフォルニアワイン協会日本事務所 E-mail : info@calwines.jp 電話番号 : 03-6629-3658	この件に関する報道関係者様からのお問合せ先 KONDO SAORI OFFICE 近藤 さをり E-mail : saori@saorikon.com 電話番号 : 080-7011-5747
---	--